

## Vol.2 古都の出来事

旅行好きなAさん夫妻は、今年のデスティネーションとしてプラハとウィーンの旅を企画した。プラハは、神聖ローマ帝国の時代にすでにヨーロッパ第二の都市であって、その後1000年以上も文化や芸術の中心であり続けたことと、第二次世界大戦で破壊されなかったことにより、各時代の建築物で有名である。12日間の周遊予定で訪れた夫妻は、プラハ市街を歩く観光客の過半が韓国の人たちであることに驚いた。ソウル・プラハ間の直行便があるから便利なのかもしれない。

夫妻は、到着当日にピルゼンビールとモラビアワインで郷土料理を楽しんだ。翌日、A氏は観光中に突然経験のない激しい腹痛、というより背中を痛めた。急いでホテルに戻り、婦人が出発前にスマホに登録しておいた保険会社の緊急時の電話番号に電話を掛けた。保険会社の担当は状況を聞き、提携クリニックの2時間後の予約をしてくれた。

病院での各種検査と診察の結果、A氏は腎臓結石とのことで入院することになった。どうなることかと不安に思っていた夫妻であったが、保険会社が手配してくれた医療通訳がウィーンから来てくれた。通訳は現地の人ながら流ちょうな日本語で入院後の治療処置や手続きを詳しく説明してくれたので、A氏は安心して治療を受けることができた。EUでは、医療通訳は定められた資格を有する人しか許されていないという。



病気などしたことのなかったA氏は、外国での入院もよい経験と思ったが、隣の人の言葉が全く分からず、書いてある文字も読めないことは大変に堪えたそうである。そのため、この時来てくれた医療通訳が非常に有難かったという。幸い、2日間の入院で痛みは軽快し、処方箋をもらって退院となり、以降の旅行日程を消化することができた。

### 〈ワンポイントアドバイス〉

A氏のように旅行とは関係のない病気など、思わぬトラブルはいつどこで発生するかわかりません。海外渡航の際には、家族や関係者の連絡先のみならず、保険会社やクレジットカードの緊急連絡先、現地日本大使館などの連絡先は事前に登録しておきましょう。

※本コラムは、2004年に発表されたものを再稿したものです。

当サイトの内容、テキスト、画像等の無断転載・使用・引用等を禁じます。

Unauthorized copying and replication of the contents of this site, text and images are prohibited.

© 2018 JRM Inc.